くにみ

【第７９号】
昭和39年４月15日発行
非売品
発行所　国見町公民舘
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

48部落完納表彰式
納税組合長会

国見町役場では四月八日午後一時より役場会議室で納税組合長会を開き、昭和三十八年度の納税成績一〇〇パーセントであった四八の納税組合と、四つの地区総合組合を表彰し、功労のあつた秦作蔵、菊地亀七の両氏に対しては感謝状を贈った。昭和三十八年度におけるわが町の税の調定額は、

町県民税	五二七万
固定資産税	一二九六万
国民健康保険税	九六五万
軽自動車税	一四五万
法人等町民税	五二万
西根堰費	四五三万

合計三、四三八万円で、その収納額は三、四三四万円、収納歩合は九九・九パーセントの高率である。さらに地区別に収納額と収納率を見ると左記の通り。

藤田	一、二七五万	九九・八
小坂	四二二	一〇〇
森江野	八五九	一〇〇
大木戸	五五六	一〇〇
大枝	三〇二	一〇〇
その他	二二	九五・五

式にはまず小坂、森江野、大木戸、大枝の各地区総合組合に表彰状を贈り、更に一〇〇パーセント完納した次の部落納税組合を表彰した。

◎小坂方部
小坂・太田川・前田・板橋・泉田上・泉田中・泉田下・鳥取・内谷西・内谷東

◎藤田方部
駅前・大町南・大町北・本町・宮町南・宮町北・町東部・鶉町・石母田東・石母田表・石母田北・石母田原・石母田西・山崎北・山崎南・滝山

◎森江野方部
第一・第二・第三・第四・徳北・第七・第八・第九・第十・第十一・第十二

◎大木戸方部
貝田・山根・大木戸・高城・光明寺

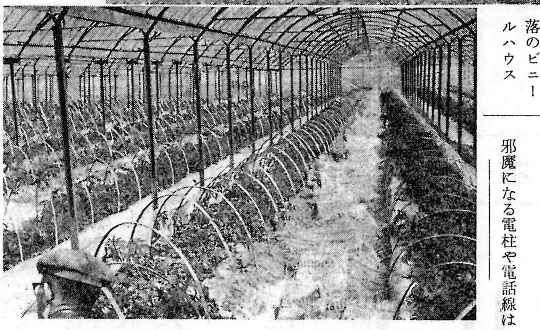
◎大枝方部
北部・中部・並柳・川内・築舘・原町

全役員再選

表彰式に引つづき、国見町納税貯蓄組合連合会の総会を開き、三十八年度の決算や事業の報告をし、役員改選の結果後記のとおり全役員再選、三十九年度の事業、予算を審議決定した。

役員
会長　佐藤新七
副会長　大勝藤繁
会計　野村隆一
監事　蓬田直一
庶務幹事　林長七

（上）みのり荘前で記念撮影



（下）横塚部落のビニールハウス

四反歩のビニールハウスにビツクリ

国見町青年学級では二月から農業講座を開き、毎週三日づつ集って農事の学習をしてきたが、三月二十七、八の両日、矢吹、郡山方面に修学旅行をした。農業改良普及員の佐藤技師や公民館職員の案内で矢吹の経営伝習農場、郡山の農業試験場、日本化学郡山工場を見たのち、郡山市郊外横塚部落の蔬菜栽培地の模様を視察した。特に三名の青壮年協業によるビニールハウスは四反歩の水田に設けたもので、トマトとキウリが栽培されていた。施設費一六〇〇万円は初年度で回収し、三年後には再び水田にする田畑輪換計画、はたしてそううまくいくかどうか大いに興味あるところである。

尚郡山では例によって「みのり荘」に泊り、三食三〇〇円のごちそうに感謝した。

三〇名の先生異動

県下教職員の異動により、わが国見町の小中学校にも次のような動きがあつた。

（氏名の下は旧任校）

退職　古川松太郎　藤田小
同　関根倭文子　同
同　伊勢ふみ　大木戸小
同　長谷部明　県北中
堰本小　氏家敬子　大木戸小
御代田小　内村道子　森江野小
小手小　菅野史子　同
川俣高　菅野格男　県北中
富成小　斎藤善二　同
藤田小　菊地芳宏　小坂小
大木戸小　大友蓉子　藤田小
同　安藤玉井　同
小坂小　村上雄一　桂沢小
同　畠腹桂子　半田小
藤田小　今野考止　伊達小
同　根本フキ　桑折小
同　遠藤テル　桂沢小
同　伊勢美枝子　飯樋小
森江野小　木実谷俊彦　福島一小
同　市川多門　伊達崎小
同　新井愛子　同
大木戸小　小林アヤ　大枝小
同　槌谷幸一　睦合小
県北中　富田和志　掛田中
同　古関重達　若松一中
藤田小　菅野満子　粟野小
小坂小　石幡久剛　伏黒小
同　瀬川政一　桑折小
県北中　横山市郎　粟野中
藤田小　田村操　伊達小

ぼくのゆめ
三十年後の国見町（二）

宍戸惣兵エ

邪魔になる電柱や電話線は

全部地下に埋められ、点在していた部落は町附近山添いに移った。アパート式に団地化されたわけである。阿武隈川添いには養蚕地帯で、みごとな近代桑園が川下に広がっている。大きな共同飼育所が工場のように建てられている。更に一八〇度目を転じて半田山下に向けると、ここには乳牛や和牛がゆうゆうと草をはみ、大型サイロがエントツのように立っている。田畑輪換の飼料畑がグリーンベルトをなし、黄金の稲穂と白い阿武隈の流れとが、みごとなコントラストをなしている。

なるほど、この三十年間の激しい農村の変化は驚くばかりである。当時、首相の池田さんが農村人口四割減論をぶって問題となったが、その通り農村の人口は、工業発展のため都市部に吸収され、国見町の農業人口も約四千人、農家戸数六百戸と当時の三分の一に減った。

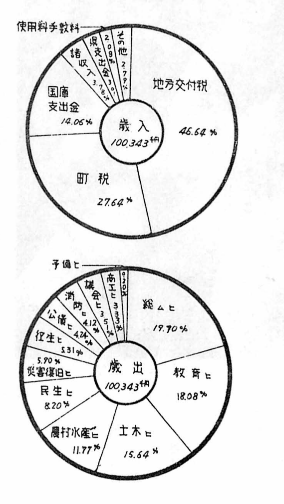
経営形態も変わり、一戸当り耕作面積平均五ヘクタール以上となり、各農作目ごとに適地に集団化され、大型トラクターなどの機械力がフルに活用されるようになった。

水田地帯の場合をみると、農協の作付計画と部落ごとの農事組合の作られた作業計画に従つて、農協の大型トラクター、ヘリコプターを使用し、耕耘、整地、施肥、播種、除草剤、薬剤撒布が一貫して行なわれ、コンバインによって刈取、脱穀された籾は、すぐトレーラーにばら積みされ、町のライスセンターへ運ばれる。籾のまゝここで乾燥貯蔵される。

泥田に足を入れ、腰を曲げて田植をした時代はとうに昔のこと。今はヘリコプターで空から種をまく直播栽培である。だから外に出て働くのは主人一人で充分。婦人は完全に農作業から解放された。そして育児や家事の仕事に専念できるようになった。

次に酪農地区に足を踏み入れてみると、ミルクの香りが鼻をつく。どの家も二、三十頭の牛がルーズバーンの牛舎に放し飼いされている。水田や畑は殆んど飼料作物がつくられ、クローバーの花が咲き乱れ、甘ずっぱい香りをただよわせている。ここでも飼料刈取りに大型トラクターにひかれたモーアが活躍している。

更に足を伸ばして果樹地帯に行くと、ここでも又機械力がフルに活用されて、薬剤撒布はスピードスプレヤー、ヘリコプターが活動する。りんご地帯、ぶどう地帯、桃地帯とそれぞれ団地化され、品種等の選択は農協が計画的に指導、作業は共同で行う。トラックで選果場へ。そして加工用は農協直営の加工場で処理され、生食用は市場の動きによって計画出荷される。農薬も発展して着花、摘果着色等は自由自在、病害虫防除は完璧となった。今や福島県の果物は国見で代表されるようになった。



昭和３９年度国見町一般会計予算表

収入の部		
科目	金額	全体に対する割合
	千円	%
1.町税	27.737	27.67
2.地方交付税	46.800	46.64
3.分担金及負担金	1.537	1.53
4.使用料及手数料	2.082	2.08
5.国庫支出金	14.106	14.06
6.県支出金	3.021	3.01
7.財産収入	69	0.07
8.寄附金	998	0.99
9.繰越金	200	0.20
10.諸収入	3.791	3.78
計	100.343	100.00

支出の部		
科目	金額	全体に対する割合
	千円	%
1.議会費	3.529	3.51
2.総務費	19.722	19.70
3.民生費	8.224	8.20
4.衛生費	5.338	5.31
5.農林水産費	11.804	11.77
6.商工費	3.350	3.33
7.土木費	15.700	15.64
8.消防費	4.140	4.12
9.教育費	18.150	18.08
10.災害復旧費	5.918	5.90
11.公債費	4.255	4.24
12.予備費	213	0.20
計	100.343	100.00

◎祝祭日には国旗を立てましょう（旗・竿・金具一組…三〇〇〇円であつせんします）

役場の異動

国見町役場では、このたび早田総務課長の退職補充を機会に、職員の異動並に新採用を行なった。（氏名の下は旧職名）

退職　早田盛
総務課長　八巻亀寿　税務課長
税務課長　朝内宗光　社会主任
厚生課長　中村政治　庶務主任
経済課長　金田保美　農林主任
議会事務局長兼監査委員会書記　熊坂善七　経済課長
住民室主任　中山弥　土木建築主任
総務課庶務主任　遠藤金六　消防主任
同消防主任　渡部直人　徴収主任
税務課賦課兼徴収主任　林長七　賦課主任
厚生課社会兼国民年金主任　佐久間忠三　国民年金主任
建築課土木建築主任　赤坂正勝　土木建築係
厚生課年金係　渡辺等　会計室
会計室　佐藤光一　年金係
経済課農林主任　吉田貞造　共済組合

（新規採用）
総務課　佐竹弘治
税務課　須田善二
同　小池芳男
厚生課　佐久間靖明
建設課　菊地孝吉

公民館余録

やめられない話

◎玉川百科事典三〇巻
大したもんですよ、一度ごらんになりませんか、おもしろくてやめられませんよ。

◎研修所にオルガン
公民館ではこんどすばらしい電気オルガンを買つて青年研修所におきます。時どき借りてブカブカやつて見るとやめられません。

◎ラジオ農業学校ろくおん
毎朝六、四〇からのＮＨＫラジオ農業学校、家内中でごはんをたべながらきいています。なかなか良くてやめられません。公民館ではろくおんしてありますから利用して下さい。

◎教育映画二〇本
定期配分といつて県から常に二〇本づつお借りしてあります。機械は二台、技術者はいつぱい、使えば使うほどやめられない。

国見町立小学校児童数（39.4.1現在）

校名＼学年	1	2	3	4	5	6	計	学級数
小坂	40	28	37	51	45	56	257	8
藤田	104	81	102	102	99	121	609	17
森江野	31	52	45	48	60	58	294	9
大木戸	40	36	39	55	48	54	272	8
計	215	197	223	256	252	289	1.432	42
県北中	321	334	398				1.053	23

大枝小学校は組合立ですので次号で別にお知らせします。

さあ、ことしも完納と火の用心に努めましょう

吉岡先生の話に聞き入る婦人たち

インドに思う

—吉岡先生のお話をきく—

ものみなよみがえる春四月、この春をどんなに待ちわびたことでしょう。時どき意地悪い突風が暴れ廻って通り過ぎると、日一日と野や山が色づいて来る。庭にはまず梅の花がほころび、次に目のさめるようなあざやかさで水仙が笑みかける。考えてみればあたりまえのことではあるが、日本には四季の区別がはっきりしていて、それによって人びとの生活や心にも変化があり、折おりを楽しく過すことができます。

婦人講座の最終会は、婦人の集いでおなじみの吉岡先生「印度に旅して」と題し、二～三月にかけて旅行されたインド旅行のおみやげ話しをおききすることができました。

インドの変った生活や気候風土など、直かに見聞されたことを、おもしろおかしくお話しになり、時間があればまだまだお伺いしたいことばかりでした。NHKテレビでも、先生のお話しと前後して「アジア文明の源流」と題する記録映画を見たりして合わせ考えることは、高度の福祉国家には及ばないとしても、一応は文化的な生活をしている家庭の多い現在、ごはんを食べながらテレビを見、世界のできごとを知ることができるような恵まれた人達ばかりではないということでした。

しかしインドは宗教の国であり、動物を非常にかわいがり、五戒という五つのいましめがあり、その中には禁酒もふくまれていると か、何か日本ではとうの昔に忘れられてしまった純粋な愛情や、生活の表面的な文化に酔って、自由無責任な行動など、少くとも自分をいましめることなど考えることもできないような世相ですが、さすが宗教の国柄だけに、心のふるさとに触れる思いでした。

しかし、生活の文化は低くテレビなどは何のことかわからず、日本のトランジスターラジオが非常にこのましく、カメラなども日本では数十年前の古い型のものが、店先に二つ三つ並べられているとか。人びとの生活も貧しく、気候も赤道直下に近いため年中暑い。したがって生活にもけじめがなく、その態度も怠だである。いつでも国のどこかで内乱があり、他の国との紛争がある。また悪疫が流行し、中でもライ病や天然痘が非常に多く、国営の施設は多少あっても到底収容しきれず、大した進んだ手当もなく、入っても入らなくとも同じである。多くの人びとは文盲で、宗教は同じであるが階級制度があり、それに支配され一般民は非常に貧しく、そのため結婚もできずに一生を過してしまうものが多いとか。農産物も非常に原始的なやり方で収穫が少ないなど、きびしい気候風土にも大きな原因があるでしょうが、政治の手が国のすみずみまで行きわたらない感じがしました。

しかし、いろいろの生活の条件のむずかしい国でも、一貫して底に流れている偉大な宗教、私たちはもう一度ふりかえって考えるべきでしょう。インドに限らず、まだまだ地球上のどこかに、こうゆう恵まれない生活をしている人も多いことを考えると、人種的、民族的な違いもなく、うるおいのあるこの山河に生れ、育ち、平凡ながらも朝夕おだやかに生きるだけでも幸福であると、先生のお話からじっくりかみしめることができた次才す。

（熊野花子記）

幼児を交通事故からまもろう

新学期がやってまいりました。わが国見町では二五五名の小学校一年生、それに一五〇名の保育所幼児、合せて四〇〇名の子どもたちが、一斉に街頭に飛び立ち、歩行者の仲間入りしました。

この幼児たちは、これまで両親の看護のもとで安全に歩いていましたが、これから先は、はげしい交通のなかを、ひとりで歩かなければならなくなったのです。それだけに新入学児童のいる家庭では、何よりの心配になっていることでしょう。

交通事故は、だれが被害者になっても悲惨なものですが、とりわけ児童幼児の被害は痛ましい限りです。新しいランドセルを背にして、よろこび勇んで出かけた児童が、交通事故に出あったのではたいへんです。

道路交通法才十四条には「児童幼児が通園通学のため道路を通行している現場に居あわせた者は、児童が安全に通行できるよう誘導、合図、その他適当な措置をとるようにつとめなければならない」と定めております。これを見てもわかるように、新入学児童を交通事故から守ることは、町民全体の責任といえましょう。そこで運転者も歩行者も、新入学児童を見てやるとか、注意してやるとかして、みんなで交通事故から守ってやり、お母さんや子どもを泣かせないよう努めようではありませんか。

◎ワン、ツー、スリー、ゴー　道路横断もリズムにのせて

昨年中県内で、小学一年生が六二人交通事故にあい、そのうち三人が死亡しました。その事故の原因は、車の直前横断と道路への飛び出しということです。これを防ぐためには、道路を正しく横断する方法を身につけさせてやることです。

「まず右を見て、次に左を見て、さらに右を見て、車のこない時さあ横断ー」

実際に通学する道路で、何回も手をとって教えましょう。運転者のみなさんも、新入学児童を見たら「ワン、ツー、スリー、ゴー」のリズムにあわせて、児童の横断を見守りましょう。

◎すずの鳴る方を歩きましょう

国見町交通安全協会では、新入学児童に交通規則を徹底し幼時から規則を守る習慣をつけようと、鈴のついたリボンをこんど一年に入学した児童達の右胸につけてやった。

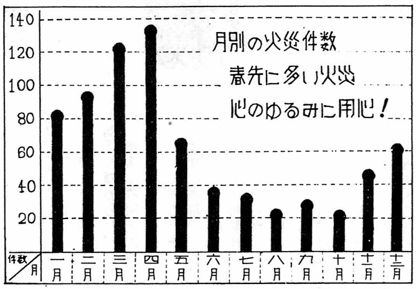
選挙風景　いろは（抄）

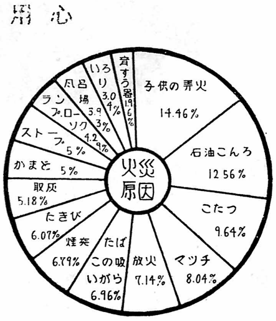
○誓った公明やろうじゃないか、成人の日のあの意気で
○そんな人とはつい知らなんだ、おれも乗ったか口車
○飲ませられるとすぐ気か変わる、たよりないぞい浮動票
○口が立派ではらわたなくて、派手におよぐは鯉のぼり
○照ると曇るはお天気次才、選良えらびはおれ次才
○溺で殺されお金で釣られ、あとで悔いてるバカなこと
○清き一票どなたに上げよう、清く正しへつよい人
○縁をたよりに見知らぬ人の、投票たのみはずうずうしい
○政治動かす鍵だとわかりや、何で捨てらりよこの一票

（公明選挙時報より）

ポンプ百より用心一つ

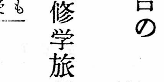
ご用心……ご用心



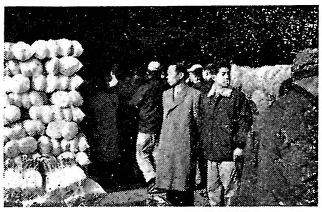


四分間に一台の自動車工場

建設班の修学旅行（中）



こんなところに五～六日も宿泊し、専門講師の指導を受けながら、あのスポーツ施設や研究室を十二分に活用し、富士登山をしたり、箱根方面にサイクリングをしたり、静岡、甲府方面の近代化農村を



視察した[illegible]ここまでもひろがる。九時出発、途中バスの窓から才二宿舎を見る二階建の鉄筋コンクリートづくり、定員一一九名とのこと。やがて御殿場駅着、丹那トンネル開通後はローカル線の一駅になってしまったが、国府津沼津間の要衝、富士登山の表玄関として今尚栄えていることは、二十に余るバス路線の発着所があることでもわかる。

「トンネルくぐればまっくろけのケー」とうたわれた箱根峠もスマートなディーゼルカーは一気にくだる。

国府津で東海道線に乗りかえ、車窓にうつる相模湾の風景を賞しながらも、沿線に続く近代的な大工場に心を引れる。殊に山を削り、海を埋め立て、田畑をつぶし、到るところ建設工事が展開されている姿は、工業化するわが国土の縮図かと思われる。

川崎駅下車、バスで「いすず自動車工場」へ行く。二千人分の席を有する大食堂で昼食、青年の家の心づくしの弁当を開く。御殿のような応接室で吾妻町出身という大内氏の説明をきく。

三〇〇〇の従業員で一か月三一〇〇台の大型車（トラック二五〇〇、バス六〇〇）を組立てている。一日一二五台、四分に一台の大型車を完成しているとのこと。もちろんそのかげには約三〇〇の協力工場があるとか。ガイドのリズミカルな説明について工場を見学する。一分間に二メートルぐらいの速度で移動する組立台にのせられた車体が、いつのまにか完成していく。必要なときに必要な方向から必要な程度に組立てられた部分が動いて来て、必要なところにピタリと吸いつく。人間はただナット締め機の一部に過ぎない。検査場、部品工場、倉庫、それらを包む大騒音かけ足でめぐり、外に出てホッとする。こんなところで一日中、毎日、毎年同じ仕事をしている人は、いったいどんな気持ちをしているのだろうか。ある者はある部分のネジ締めに日を送り、ある者はある部分の穴あけ専門、それがどこにどんなふうに使われるかわからない。

夕闇迫る頃上野駅に着く。今夜の東京を観賞しながら、今夜の宿太陽館に着く。東京のどまん中でありながら郊外のように静かだ。文教地区本郷のおかげだろう。昨夜からの疲れで一同就寝が早い。